

北海道立図書館 90 周年記念

北海道立図書館のあゆみ展
「道民とともに、
図書館とともに」



会場：北海道立図書館 階段横特設展示コーナー

期間：平成 28 年 7 月 30 日(土)～8 月 30 日(火)

はじめに

北海道立図書館は大正 15 年 11 月、札幌市に北海道庁立図書館として開館し、今年で開館 90 周年を迎えます。

本目録は、90 周年記念北海道立図書館のあゆみ展「道民とともに、図書館とともに」で展示しているパネルについて収録します。

凡例

展示パネルに通し番号を付与し、出典と簡易説明を記入した。

- 1 **【出典資料名】**『行啓記念北海道庁立図書館報 創刊号』
【出典資料発行年】 1926.12 発行
【パネル説明】 大正 15 年、北海道庁立図書館が開館した年に発行した、『行啓記念北海道庁立図書館報』創刊号の表紙



北海道庁立図書館開館と館報創刊

北海道庁立図書館は大正 15 年 11 月、札幌市北 1 条西 5 丁目(現北菓楼札幌本館)に開館した。

庁立図書館の設置は、明治の頃から懸案とされていたものの、北海道は開拓の歴史が浅いということもあり、図書館の設置状況は他府県よりも遅れていた。契機となったのは大正 11 年、摂政宮殿下の本道行啓で、同年に行われた道会で設置が決定された。

建設準備は急速に進み、着工の約 1 年後である大正 15 年 8 月に、北海道庁立図書館は完成。開館式は 3 階閲覧室で挙行され、同年 12 月には閲覧が開始されるとともに、館報が創刊された。

そのころの北海道のできごと

T15.4.24 本土-北海道間初の電話線が開通

(青森-函館間)

T15.5.14 北大創基 50 年、クラーク博士胸像除幕式

T15.10.3 本道初の普通選挙で議員選挙を執行

1 『行啓記念北海道庁立図書館報 創刊号』

1926.12 発行

大正 15 年、北海道庁立図書館が開館した年に発行した、『行啓記念北海道庁立図書館報』創刊号の表紙

2 『行啓記念北海道庁立図書館報 第 23 号』

1929.12 発行

昭和 4 年、館外貸出を開始した頃の閲覧室

3 『北海道図書館報 第 22 号』 1951.3 発行

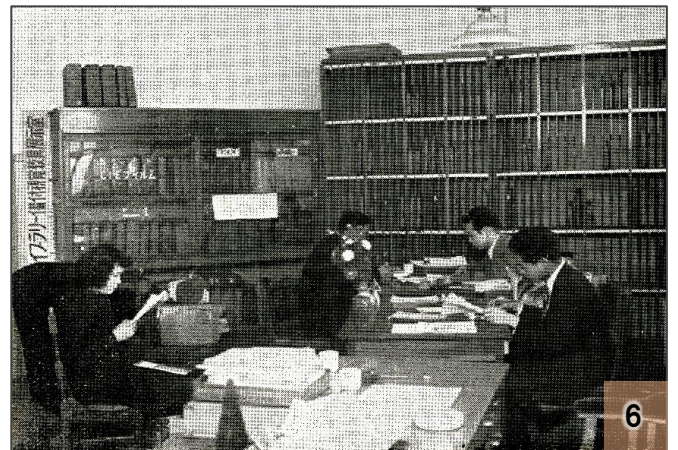
昭和 26 年、北海道図書館条例の公布により、館名を北海道図書館と改称



4 『北海道図書館要覧(開館二十五周年)』 1951.10 発行
昭和 26 年の北海道図書館

5 『北海道図書館要覧(開館二十五周年)』 1951.10 発行
昭和 26 年の閲覧室

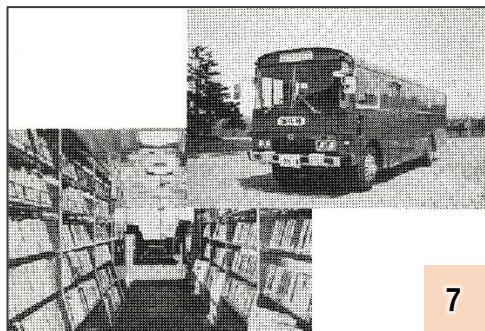
6 『北海道図書館要覧(開館二十五周年)』 1951.10 発行
昭和 26 年の視聴覚ライブラリー



移動図書館車“あけぼの号”誕生!!

全国で自動車文庫活動が展開される中、道内全域に図書館サービスを拡大するため、ついに今から64年前の昭和27年、移動図書館車の運行が始まった。

車名は懸賞募集され、約300もの応募の中から採用されたのが“あけぼの号”であった。最大積載冊数1,700冊、全長8mの大型バス“あけぼの号”は、道内6支庁46町村64ステーションを巡回するよう運行計画が立てられ、遠隔地に住む人々のために「本」という夢と希望を載せ、年間10,000kmもの距離を巡回し、道内各地に読書の喜びを運んだ。そんな移動図書館事業も平成17年度末に、静かにその役割を終えた。



7



8

そのころの北海道のできごと

S27.1.21 白鳥事件発生

S27.3.4 十勝沖地震発生 マグニチュード 8.2

S27.3.29 阿寒湖のマリモが国の特別天然記念物に指定

7 『北海道立図書館報 No.107』 1982.6 発行

昭和27年、巡回を開始した移動図書館あけぼの号

8 『北海道立図書館報 No.182』 2007.3 発行

平成17年、長い歴史に幕を閉じ今金町に譲与されたあけぼの号

9 『[北海道立図書館]要覧』 [1964]発行

北海道立移動図書館の歌「あけぼの号」

(作詞:山田貞一/作曲:荒谷正雄)

北海道立移動図書館の歌

作詞 山田貞一 作曲 荒谷正雄

あけぼの号
 緑の国々の山越えて
 今日もすすむよ あけぼの号
 みんなの待つてる たのしみは
 村が有るく なるよな
 希望の本を もらってくる
 旅らの図書館 あけぼの号

二、 供いほの 砂越えて
 今日も休まるよ あけぼの号
 雨にも風にも すすみます
 深もたのしく通ります
 光りと本を のせてくる
 わたしの図書館 あけぼの号

三、 淡い春水の 波越えて
 今日もはしるよ あけぼの号
 黄色い車を 光らせて
 心が大きく 伸びるよ
 へき地に本を つんでくる
 みんなの図書館 あけぼの号

あけぼの号

moderato 作詞 山田貞一 作曲 荒谷正雄

編者兼発行者/北海道立図書館
 札幌市北1条西5丁目
 電話 23-0811・23-1392

9

分館の設置

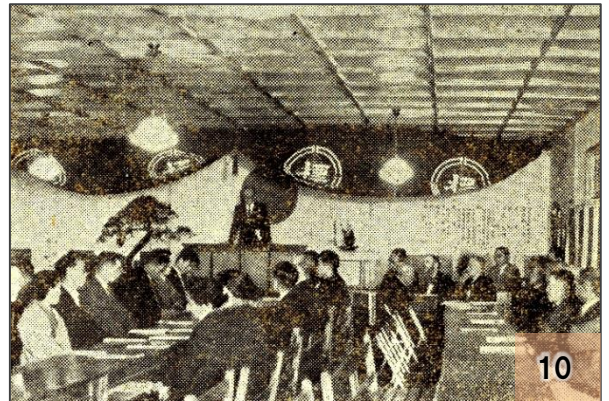
北海道図書館は北海道全域へサービスを提供するため、昭和 27 年から移動図書館の活動を開始した。しかし、北海道の広大なサービス範囲に対応するためには、道内要地に巡回基地としての分館を設置することが急務であった。

昭和 28 年、分館の設置が決定。特に道北地区への設置が検討された結果、当時の名寄町(現名寄市)に最初の分館が誕生した。

その後も、昭和 29 年に八雲分館、昭和 31 年に標茶分館が、移動図書館の地方基地として設置されていった。

そのころの北海道のできごと

- S28.11.2 札幌-千歳間弾丸道路開通
- S29.7.23 第 9 回夏季国体を道内で開催
- S31.12.22 NHK 札幌中央放送局のテレビ開局



10『北海道図書館報 第 56 号』1957.3 発行
昭和 31 年、標茶分館開館

栗田ブックセンターと栗田文庫

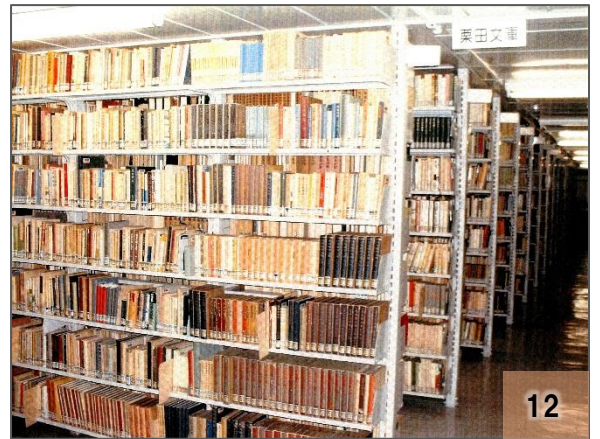
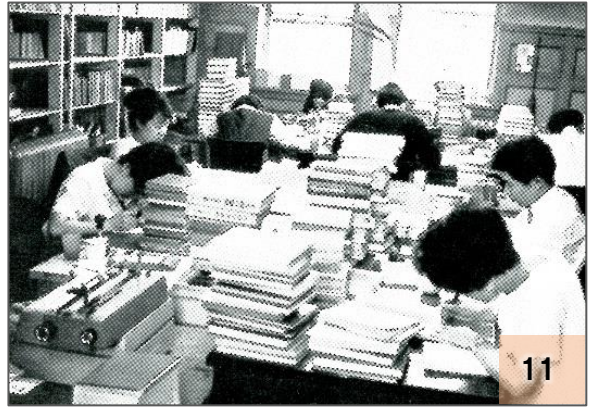
昭和 27 年、栗田書店(現栗田出版販売)の栗田確也社長は、国内で出版された図書を一堂に展示し、自由に出版物に接せられるよう、栗田ブックセンターを設立した。集まった資料は 11 万冊を超え、戦後出版文化の向上に大きな役割を果たしたが、出版事情の好転とともにその役目を終えた。

栗田氏は資料の寄贈先として、道内出版文化に貢献した富貴堂書店先代社長・中村信以氏ゆかりの北海道を選んだ。昭和 38 年 3 月、資料を寄贈する旨の話が北海道図書館にもたらされ、蔵書となったのが現在の栗田文庫である。その後も数次にわたる資料の寄贈があり、当館の特徴的な資料群となっている。

そのころの北海道のできごと

- S38.2.11 青函海底トンネル調査坑着工式
- S38.4.5 第 35 回選抜高校野球大会で北海高校が準優勝
- S38.7.- 三井美唄鉦閉山

- 11 『[北海道立図書館]要覧』[1964]発行
昭和 38 年、栗田ブックセンターからの寄贈資料を整理する様子
- 12 撮影年不明、北海道立図書館の栗田文庫
- 13 『[北海道立図書館]要覧』[1964]発行
昭和 38 年の北海道図書館
- 14 『[北海道立図書館]要覧』[1964]発行
昭和 38 年の閲覧室



江別市への新築移転

昭和 38 年の栗田ブックセンターによる大量寄贈は、北海道図書館の収容能力をはるかに超えていた。結果、かねてより議論されていた改築構想が本格化し、新館建築へ踏み切ることになった。

建設予定地は大激論の末、昭和 39 年に現在の江別市文京台東町(当時の江別市西野幌)が選ばれた。建設工事は昭和 40 年 9 月から 42 年 2 月にかけて行われ、平行して、各市町村図書館への支援などに重点を置いた、新しい運営方針も定められた。

昭和 42 年 4 月 1 日、新館開館式が挙行され、北海道立図書館(昭和 39 年館名改称)は施設と機能の両面で、新たな一步を踏み出したのだった。

そのころの北海道のできごと

S39.7.10 三浦綾子さん、『氷点』が朝日新聞の懸賞小説に 1 位入選

S43.9.2 「北海道百年」記念祝典

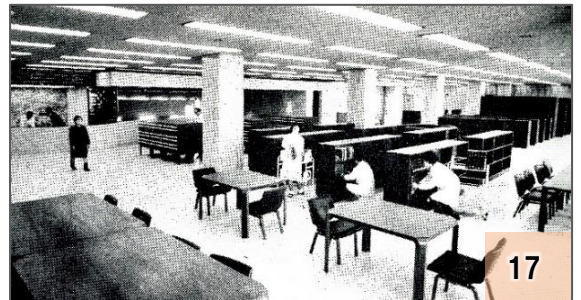
- 15 『道立図書館利用案内』 [1967]発行
昭和 42 年、北海道立図書館落成式
- 16 『道立図書館利用案内』 [1967]発行
昭和 42 年の資料管理室前
- 17 『北海道立図書館建築概要』 [1967]発行
昭和 42 年の参考閲覧室
- 18 『北海道立図書館建築概要』 [1967]発行
昭和 42 年の積層書庫
- 19 『北海道立図書館建築概要』 [1967]発行
昭和 42 年のエントランスホール



15



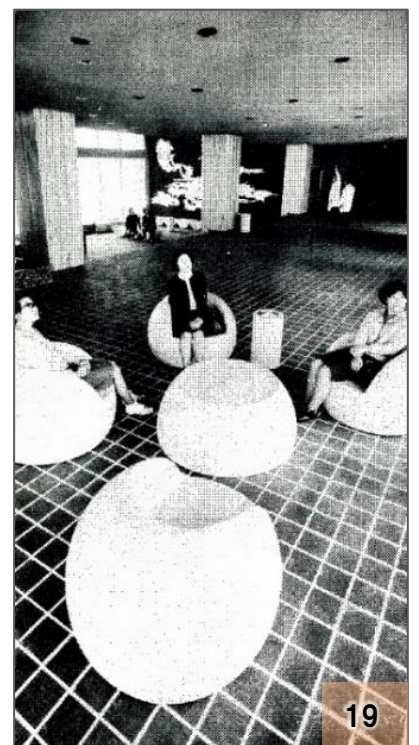
16



17



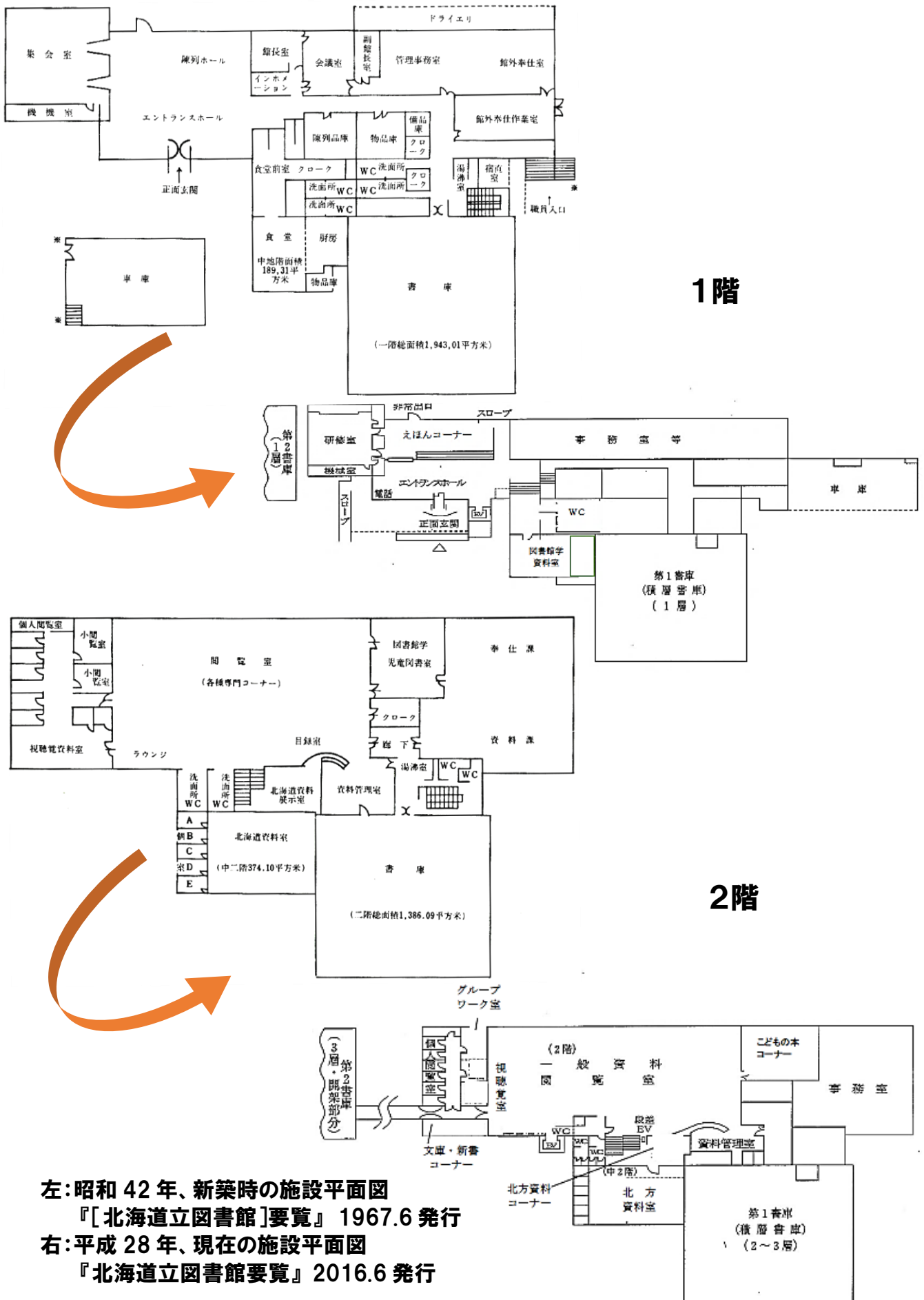
18



19

道立図書館平面図

建築当時と現在の建物を比較すると、こんなに変化があった。



左:昭和42年、新築時の施設平面図
『北海道立図書館要覧』1967.6発行
右:平成28年、現在の施設平面図
『北海道立図書館要覧』2016.6発行

館紀除幕式

昭和 45 年 12 月、新しい施設内に記念として残すため館紀を作成し、その除幕式がエントランスホールで行われた。

館 紀

開拓使日誌によれば 開拓使顧問ケブロンは 時の開拓次官 黒田清隆に 図書館等の設置を力説したという 大正一一年(一九二二) 摂政宮殿下 本道行啓のみぎり 教育振興の思召をもって ご内帑金を賜ったのを記念し 札幌市北一条西五丁目に 北海道庁立図書館として発足した 爾来およそ四〇年 札幌市民を中心に親しまれてきたが 時代の進運に伴い全道的活用を望む声 内外に起こるにいたった この時 昭和三八年春(一九六三) 東京 栗田確也氏は 本道開発の歴史と将来の発展を期待し 戦後 わが国出版の圖書を前後二回にわたり 約一三万冊の寄贈の意を表明されたが 町村金五北海道知事は この厚意に応え 本道躍進の長期展望の下に 雄渾にして 独創的な新館を 北海道百年を期し 建設すべきを企図し 道立野幌自然公園を背景に 石狩大平原を見はるかす この地 江別市西野幌を選定し 敷地六六八七九平方米 建築延五四三二平方米 経費五億一千万円をもって 装いも 近代的に昭和四二年春(一九六七) 閉館の運びにいたった 本館は 文教地区の中心に位し 本道文化発展の拠点として輝かしい未来への飛躍の地歩を確立するにいたったが 時あたかも 図書館法施行二〇周年を迎えるに当り 茲に 改めて その礎石を築いた人々の意見を銘記し 本館の進展を希う所以である

昭和四五年秋

北海道立図書館

20 『北海道立図書館報 No.74』

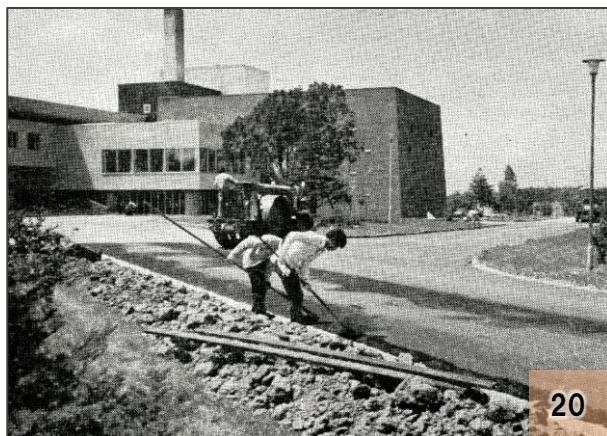
1973.9 発行

昭和 48 年、北海道立図書館前庭道路の舗装

21 『北海道立図書館報 No.75』

1973.12 発行

昭和 48 年、札幌香蘭女子学園からの大量の資料寄贈



創立 50 周年記念式典挙行

北海道立図書館は大正 15 年、蔵書数 1,204 冊でスタートした。その後、昭和 42 年に札幌市から現在の江別市に移転し、約 8 年が経過。蔵書数も 34 万冊を超え、全道市町村図書館を支えるセンター図書館となっていた。

昭和 50 年 7 月 30 日、館内一般資料閲覧室で創立 50 周年記念式典を挙行。式典の席上で、栗田出版販売の栗田鶴也社長より、戦後出版雑誌約 30 万冊寄贈の意が披瀝された。これらの雑誌は同年 11 月、栗田氏の九段倉庫より大型コンテナ 3 台で搬出、一般資料閲覧室に搬入された。総量 60 トン、ダンボール 3,900 箱にもなる膨大な分量で、一般閲覧業務の一部を休止し、職員やアルバイトを動員して整理作業を行った。

そのころの北海道のできごと

- S50.7.19 北海道警察本部爆破事件
- S50.12.14 国鉄最後の蒸気機関車を走行
(室蘭-岩見沢間)

22 『北海道立図書館報 No.81』

1975.7 発行

昭和 50 年、創立 50 周年記念の年に発行した、『北海道立図書館報』特集号の表紙

23 『北海道立図書館報 No.82』

1975.12 発行

昭和 50 年、創立 50 周年記念式典で表彰された栗田確也氏ご夫妻

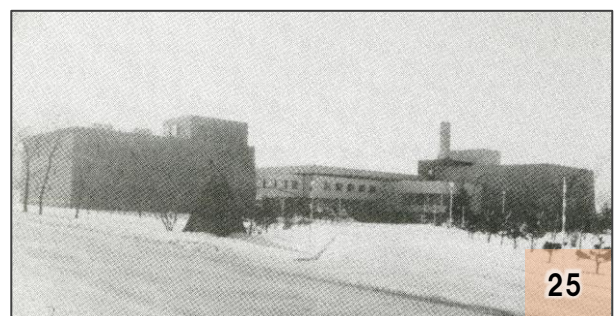
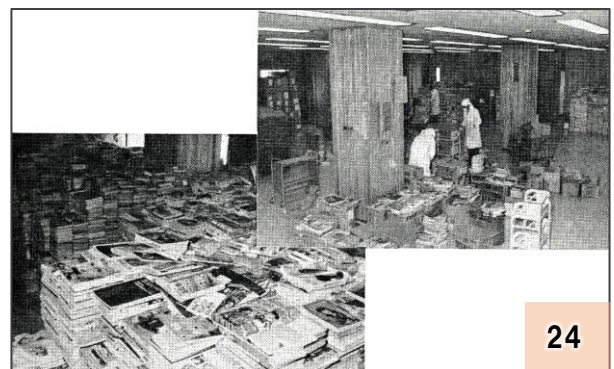
24 『北海道立図書館報 No.83』

1976.3 発行

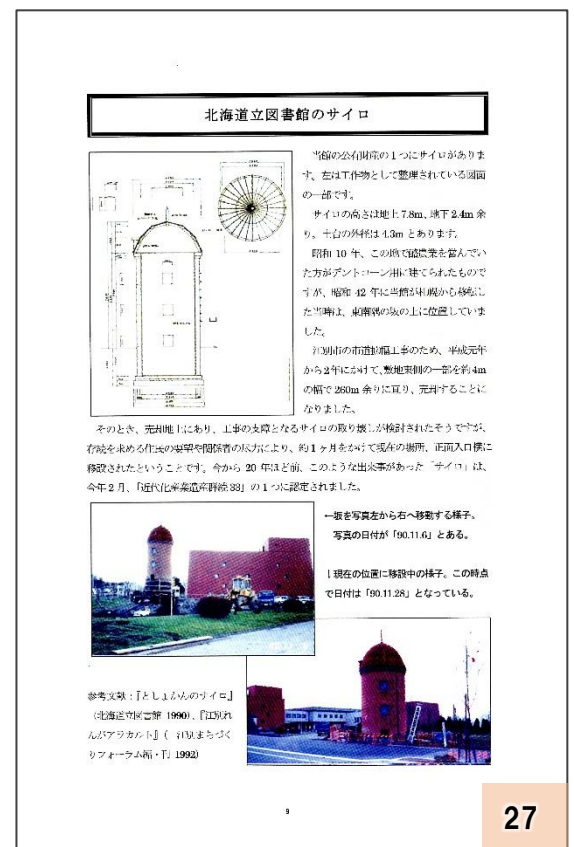
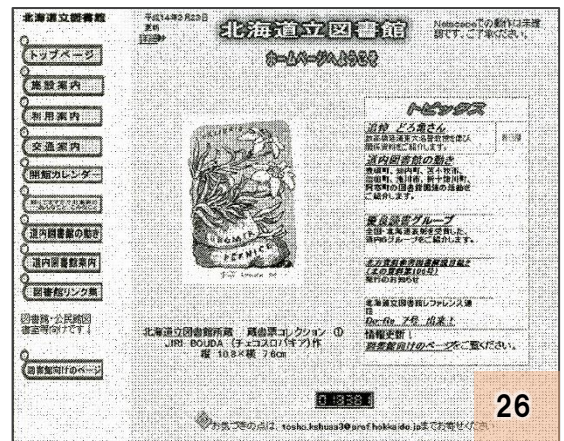
昭和 50 年、栗田出版販売からの 30 万冊の寄贈雑誌

25 『北海道立図書館報 No.113』 1984.2 発行

昭和 57 年、完成した北海道立図書館第 2 書庫



- 26 『北海道立図書館報 No.172』 2002.3 発行
平成 13 年、北海道立図書館ホームページ開設
- 27 『北海道立図書館報 No.187』 2009.7 発行
平成 21 年、北海道立図書館のサイロが、近代化産業遺産群続 33 に認定
- 28 『暮らしに、仕事に、図書館を〜「こんなに使える!」北方資料編〜』 2010.8 発行
平成 22 年、北方資料デジタルライブラリー開設



現在の道立図書館

「図書館のセンターとして ～図書館の図書館～」

「参考図書館として ～何でもわかる図書館～」

「全域サービスの図書館として ～道民みんなの図書館～」

3つの基本方針のもと、道内 179 市町村の図書館活動と、550 万人の道民の生涯学習を支援。来館者サービスはもとより、市町村立図書館等への協力サービス(貸出・レファレンス等)や運営相談、研修事業、子どもの読書活動の推進、学校図書館支援等、大学や専門図書館ほか関係機関とも連携しながら、幅広く様々な事業を行っている。

暮らしや仕事、まちづくりなどに、図書 111 万冊、雑誌 114 万冊を始めとする蔵書と図書館サービスを、是非お役立ていただきたい。

そのころの北海道のできごと

H23.3.11 東日本大震災、本道も被災

H25.7.17 桜木紫乃さん、第 149 回直木賞

H26.2.15 葛西紀明選手、冬季五輪最年長メダル

H28.3.26 北海道新幹線開業



29 『北海道立図書館要覧』 2016 年 6 月発行 平成 28 年、現在の北海道立図書館

北海道立図書館略年表

大正 15 年	11 月	北海道庁立図書館開館(所在地:札幌市中央区北 1 条西 5 丁目)
	12 月	閲覧開始、館報創刊
昭和 4 年	6 月	館外貸出し開始
昭和 24 年	7 月	北海道巡回文庫開始(昭和 45 年 3 月終了)
昭和 26 年	4 月	北海道図書館条例並びに北海道図書館協議会条例の公布、館名を北海道図書館と改称
昭和 27 年	8 月	移動図書館巡回開始(平成 18 年 3 月終了)
昭和 28 年	1 月	北海道図書館分館規則公布(平成 4 年 4 月廃止)
昭和 31 年	6 月	北海道地区 PB リポート・センター設置(昭和 50 年 3 月廃止)
昭和 35 年	6 月	複写業務開始
昭和 38 年	3 月	栗田ブックセンター(現・栗田出版販売)から寄贈図書 114,000 冊受入
昭和 39 年	4 月	館名を北海道立図書館と改称
昭和 40 年	1 月	栗田ブックセンター(現・栗田出版販)から寄贈図書 15,000 冊受入
昭和 42 年	4 月	新北海道立図書館開館(現在地)
昭和 45 年	12 月	館紀除幕式
昭和 46 年	4 月	移動図書館地区協力センター方式開始(平成 18 年 3 月終了)
昭和 48 年	1 月	連絡車の定期運行開始(平成 16 年 3 月終了)
	8 月	札幌香蘭女子短期大学から寄贈図書約 1 万冊受入
昭和 49 年	4 月	貸出文庫開始
昭和 50 年	7 月	創立 50 周年記念式典
	11 月	栗田出版販売(株)から戦後刊行雑誌約 30 万冊の寄贈目録受理
昭和 57 年	1 月	第 2 書庫建築工事着工(昭和 58 年 12 月竣工)
昭和 61 年	11 月	創立 60 周年記念文庫開設(平成 11 年 7 月終了)
平成 4 年	4 月	土曜・日曜全日開館実施
平成 10 年	11 月	旧北海道拓殖銀行から寄贈図書受入
平成 11 年	8 月	直接貸出し開始
	11 月	祝日開館試行実施(平成 20 年 4 月本格実施)
平成 13 年	3 月	ホームページ開設
平成 14 年	12 月	Web-OPAC 公開
平成 15 年	6 月	夜間開館試行実施
平成 17 年	1 月	北海道立図書館横断検索システム開始
	6 月	インターネット予約貸出サービス試行実施(平成 18 年 4 月本格実施)
	9 月	開架書庫開放(第 2 書庫 3 層)
	11 月	道立図書館創立 80 周年記念所蔵資料展
平成 22 年	1 月	北方資料デジタル・ライブラリー開設
平成 27 年	4 月	学校図書館協力貸出し本格実施
平成 28 年	7 月	現在

90周年記念パネル展目録
北海道立図書館のあゆみ展
「道民とともに、図書館とともに」

発行年:平成 28 年 8 月

編集・発行:北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町 41 番地

TEL:011-386-8521 FAX:011-386-6906

URL:<http://www.library.pref.hokkaido.jp/>

